

## 成果の説明書

(氏名)	溝口哲郎	(学部)	経済学部
1 重要事項			
<p>【研究活動】</p> <p>・2021年度科研費(基盤C)に採択された研究テーマ「腐敗・汚職の経済理論モデルの構築—経済厚生からのアプローチ」の研究活動の一環として、東京大学の文化芸術におけるSDGsのためのファシリテーター育成事業(<a href="https://sites.google.com/view/sdgswithart/home">https://sites.google.com/view/sdgswithart/home</a>)におけるレクチャーノートを取りまとめ、ホームページで公開予定である(原稿はすでに提出済)。また商業媒体に腐敗と縁故主義の問題に関する小論の寄稿を依頼され、近日掲載予定のものがある(が、次年度のため、触れておくのみにとどめる)。加えて、前年度から継続していた専門の翻訳書については、翻訳を終えてチェック及び校正段階にある。年内の刊行を予定しているが、分量が多いため時期がずれる可能性もある。</p> <p>【教育活動】</p> <p>・2022年度前期に開講した <b>Introductory Economics</b> の授業では、積極的にアクティブラーニングを行った。これはテキストを利用しているセンゲージラーニングのシステムで、受講生の授業の理解を深めるために e-learning システム (Mindtap) の導入を行った。経済政策論 I では、日本の政治経済をマクロ経済学的手法で評価し、後期は腐敗の問題に関してミクロ経済学的アプローチから、考える授業を行った。</p> <p>・2021年度に引き続き、野村証券&amp;日本経済新聞社主催の第23回日経ストックリーグに2年生2チーム、3年生1チームが参加した。コロナ禍の中対面での作業が難しかったこともあるが、「ジェンダーと企業活動」「SDGsと食糧問題」に焦点を当て、各メンバーが関連銘柄を調べて最終レポートを提出した。</p> <p>・ゼミの第三期生の卒業論文指導を行った。金融教育に関する分析、インスタグラムと自己承認要求の関係、動物系 youtuber の経済分析、野球地方リーグの経済分析、若者の政治参加に関する卒業論文、損害保険業界の経済分析、日本の幸福度に関する分析、暗号通貨と地方創生をテーマにした卒業論文が提出された。</p> <p>・拓殖大学政経学部の市川哲郎ゼミと2022年12月17日に、拓殖大学(東京:茗荷谷)でインターゼミナールを行った。テーマは日経ストックリーグの内容をプレゼンテーションするもので、双方様々なテーマを発表し、議論が行われた。</p> <p>・2023年3月16日に、希望したゼミ生とともに、金融教育の一環として日本銀行及び東京証券取引所を見学した。</p>			
2 その他の事項			
引き続きオンライン・オンデマンド教材の作成とゼミ教育の在り方について模索をしているところである。非常勤先において、留学生に多く対応したこともあり、その経験を本学において活用できるように心がけたい。			

### 3 次年度以降の計画・抱負

教育については以下のような計画である。

ウィズコロナの世の中になり、いかにして自分の感染を防ぎながら自分の体調管理を万全にしながら、大学のガイドラインを念頭に、ゼミ・授業を行い、学生のメンタルサポートなどを行っていききたい。また第四期生が希望する就職先に就職できるようなサポートを行っていききたい。

研究については以下の通りである。

腐敗・汚職は、市場メカニズムとは異なる賄賂などの金銭的インセンティブによって、資源配分の歪みを通じて一国の経済厚生に悪影響を及ぼす。そこで今年度も継続して、過去の研究蓄積をベースに腐敗・汚職がどのような形で国家統治や制度、市場の質に影響を与えるのかを経済厚生の評価から明らかにし、腐敗・汚職防止策がどの程度経済厚生を高めるのかを分析する。特に先進国の腐敗の問題と政府の経済政策の妥当性について「縁故主義」の事例を加えた分析を試みる。さらに前年度より引き続き、ロシアとウクライナの事例を踏まえ、独裁制と民主制における腐敗のコストについても国家統治の質という観点からの分析を形にしていきたい。腐敗の研究に関しては、啓蒙活動の方は比較的行うことが達成できているため、英文査読誌に掲載されるように、現在進行中の研究を投稿できるように引き続き努力する。リアルワールドゲームズと協働して位置情報ゲームとブロックチェーン、トークンエコノミー、NFTに関する研究を執り行い、地域経済や国家の政策につなげていきたい。